

令和 4 年度
地域包括支援センター 東予
事業報告書

令和4年度 西条市地域包括支援センター東予 事業報告書

(1) 基本方針

誠実さを大切にし、東予地域の高齢者の方が地域で自立した生活が営める支援を運営理念として、西条市の計画に基づくこと、切れ目ない地域包括ケアの実現、関係機関との連携の3つを基本方針としました。

令和4年度について、3つの基本方針に沿った、誠実な支援ができたと考えております。

(2) 重点目標

① 包括的支援事業

● 総合相談支援事業

令和3年度から継続している誠実な対応の成果として、全体的な相談件数は増加しています。総合相談支援の新規相談も270件あり、都度迅速な対応を行うことで、早期に何らかの支援やサービスに繋ぐことができました。ネットワーク作りや周知活動も、成果が出るほどには出来ていたと考えます。

ただ、年度目標として挙げていた高齢者の実態把握や、周知活動の1つである「包括だより」の作成には至りませんでした。特に実態把握については、日常はもちろん災害発生時にどのような支援が必要かについて、地域の課題としても浮き彫りになってきましたので、相談支援とともに実態把握も早急に進めて参ります。

● 権利擁護業務

権利擁護について、令和4年度の新規相談数は20件でした。権利擁護事業の中には虐待や困難事例等、短期間で解決の難しい案件が含まれることから、既存の事例への対応が長く、かつ難しい事例が多いです。権利擁護事業については、特に地域高齢者の生命や金銭など、重大な影響が及ぶ可能性が高い案件が多くありますので、専門性のある適切な支援に努めております。

全てではありませんが、無事解決に繋がった事例も多くありますので、引き続き市役所や保健センター等関連機関との連携と、介護保険制度以外の制度の活用も行いながら、チームケアに努めて参ります。

- 包括的・継続的ケアマネジメント
 地域包括支援センター東予が直接担当する利用者は、月の実績ベースで220～250名おられます。初めて介護保険を申請する方など、実績が上がらない利用者を含めると、1割程度増加します。
 適切な介護保険内外のサービスに繋ぐことはもちろんですが、サービスに繋がらない問題などは、話し合いを続けながら解決や妥協ができる方法を模索していきます。
 プランナーを中心とした職員が都度、情報の共有と話し合いを重ねることで、当年度も継続的なケアマネジメントができています。まだ地域資源の全てを包括したケアまでは出来ていないのが実情ですので、今後も努めて参ります。

- 在宅医療・介護連携推進事業
 医療機関、介護保険施設、在宅サービス事業所いずれも、圏域内外の機関と連携を取りながら、高齢者支援に努めております。働きかけの中で、地域包括支援センターが医療と介護の連携を橋渡しする場面も多くありました。
 特に末期がんなど変化が著しく早急な対応を必要とするケースについては、スピーディーな対応を心掛け、都度良い結果に繋ぐことができています。当年度も、新型コロナウイルス流行の余波を受け、直接対面することが難しい状況が続きましたが、リモートなどの新たに体制ができた制度、方法を活用することで、新しい連携の在り方を実感できた年だったと思います。

- 生活支援体制整備事業
 体制整備のための重点目標として、福祉ニーズの探求・分析・データ化を上げていきましたが、当年度しっかりと探り出して分析できたとは言えません。ニーズの探求方法に上げていた通いの場の充実について、圏域の公民館活動参加者の減少という課題が出てきています。東予圏域だけではなく西条市全域で同様の課題が出てきており、公民館活動に参加をしていない、支援を必要とする高齢者の情報把握がまだできておりません。一方で、介護保険新規申請などの相談は昨年同様多く、こちらについては都度適切な対応と、何らかのサービス・支援に繋ぐことができています。西条市全体の人口減少という課題もありますので、体制整備のための情報の収集と、地域住民との信頼関係の構築に努めて参ります。

- 認知症総合支援事業

認知症支援については、掲げていた目標を概ね達成できました。

まず認知症初期集中支援チームの活動について、年間3件の活動を行うことができました。これは、年度初めで本庁包括支援課と協議して目標とした数字の達成となります。ただ活動結果として、適切な医療支援に繋げることができなかったケースが1事例ありました。「認知症」あるいは「専門病院」という言葉自体がハードルになっている現状が改めて分かった事例と考えています。

もう一つの柱である「認知症カフェ」の立ち上げについて、令和4年12月から毎月1回の開催を行うことができます。まだ手探りの状態で、地域住民への周知活動も行っていますが、毎月の参加者が伸び悩んでいる状態です。

当年度は、うまくいったこと、いかなかったこと、いずれも良い経験を積めたと感じていますので、次年度に活かして参ります。

- 地域ケア会議推進事業

旧東予市内を対象とした個別ケア会議については、年間4件の目標をクリアすることができました。初めて、個別ケア会議の結果をもとに開催する「圏域地域ケア会議」の開催も3月に行うことができ、認知症や災害時の地域連携について、地域の課題を確認し、市役所も含めた関連機関との情報の共有を行うことができました。

本庁包括支援課が取りまとめている、「介護予防のための地域ケア個別会議」について、令和4年度から各委託包括が持ち回りで1回ずつ、年間5回開催するようになり、当事業所はトップバッターで6月に無事開催することができました。

いずれの会議も、困った状況や情報を、様々な機関や役割の人たちで共有することで解決に向けていく重要な会議で、いずれの会議もやり切ることができたので、連携や経験の上で大きく前進ができた年だったと考えています。

② 介護予防・日常生活支援総合事業

- 一般介護予防事業

生活支援体制整備事業と同じく、各公民館活動への参加者の減少、各地区の人口減少など、課題が浮き彫りになった年でした。情報の収集と分析から、地域の高齢者が社会参加できる場所へ繋ぐための働きかけを、生活支援コーディネーターを中心に行ってきましたが、体制が整備でき

たとはとても言えません。既存の活動に加えて、より参加しやすい活動、より興味を持ってもらえる活動の模索を続けています。旧東予市圏域の中でも、地区によって温度差もあることが分かってきていますので、引き続き情報収集と信頼関係構築を第一に考えながら、住み慣れた地域で長く住み続けられる体制作りに努めて参ります。

③ 職員研修

知識・技術・専門性の向上、活用を目標に、年間計画を立て、毎月担当者を交代することで、全員が取り組めるようにしました。また、年間計画とは別に、令和4年に職員の新型コロナウイルス感染が続いたことを踏まえ、感染予防についての勉強会も実施しています。

12月以降は、認知症カフェの立ち上げに合わせて、毎月打ち合わせを含めて都度認知症カフェについての勉強会も開催しています。

より専門的な部分を全職員が共有していく体制ができた一年だったと考えています。

(3) その他の重要な取り組み

① 新型コロナウイルス感染症予防及びまん延防止対策

地域包括支援センターでも、職員の陽性者発生がありました。いずれも単発で収束しましたが、基本的なマスク着用、手指消毒、換気に加え、来所者があった際の仕切りの活用、来所者が帰られた後の設備消毒、換気を徹底して行っています。今後も同様の取り組みを継続して、感染予防に努めて参ります。

② ハラスメント対策

ハラスメントについては基本的な知識が足りていない状況が続いていましたので、都度勉強会の開催、新たな情報の周知を行っています。今後はさらに研修計画を整え、職員が周知徹底することで、ハラスメントのない職場作りに努めて参ります。

③ 地域における公益的な活動

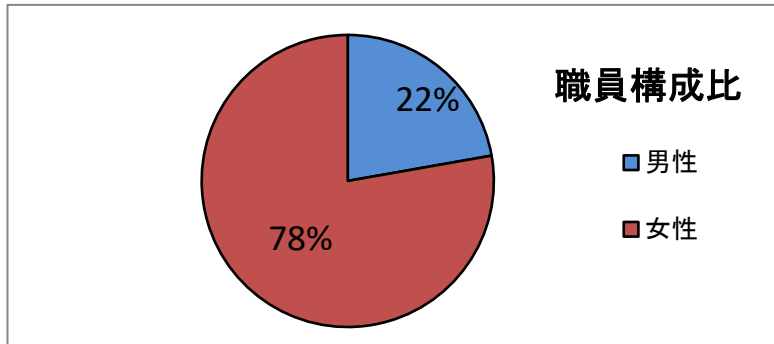
地域包括支援センターの役割自体が、包括的な地域ケアシステムの構築ということになっております。仕事自体が公益的な活動であり、通常業務であると同時に、欠かせない役割です。地域の高齢者、関係者が安心して暮らし続けられるための取り組みを継続して参ります。

1. 事業所

① 概要

事業所名	西条市地域包括支援センター東予		
事業所種別	地域包括支援センター		
事業所住所	愛媛県西条市三芳1535番地1		
管理者職名	管理者 福村 裕臣		
職員数	男性	女性	総数
	2	7	9

(令和5年3月31日現在)

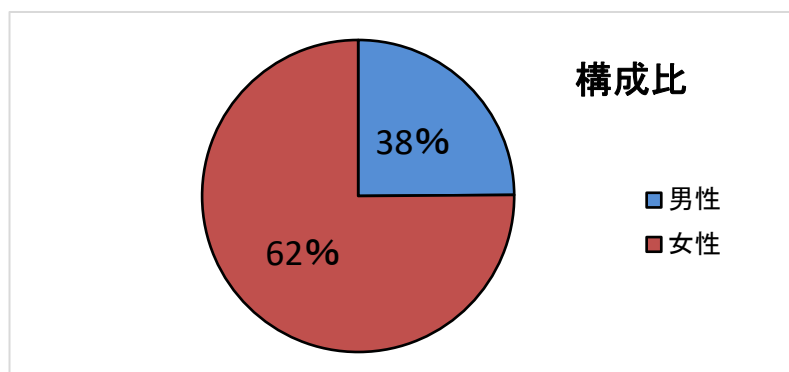


②職員紹介

職員9名の内訳としては、社会福祉士2名、主任ケアマネ2名(内1名みなし)、看護師2名 地域コーディネーター1名、事務員1名となっております。うち、介護支援専門員の資格を持った職員が4名になります。元気な方から在宅生活が困難な方まで、支援を行っております。職員の年齢層は30代から70代と幅広く、それぞれ職種の専門性や強みを活かし、多職種が共同しながら地域の方の支援をしております。

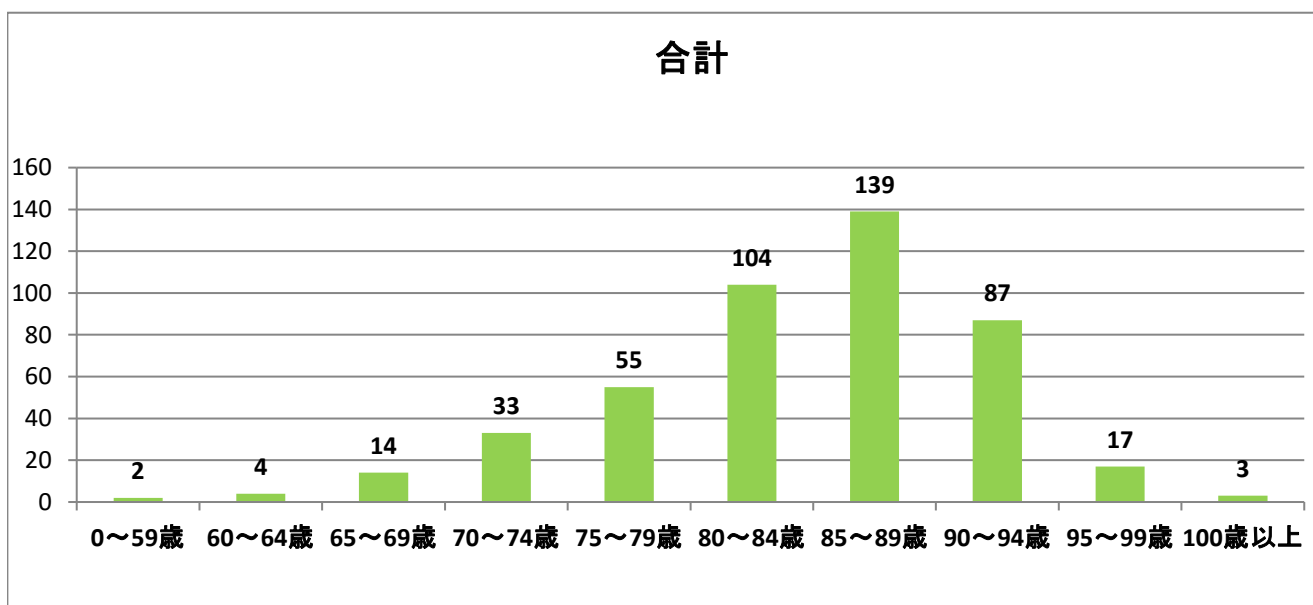
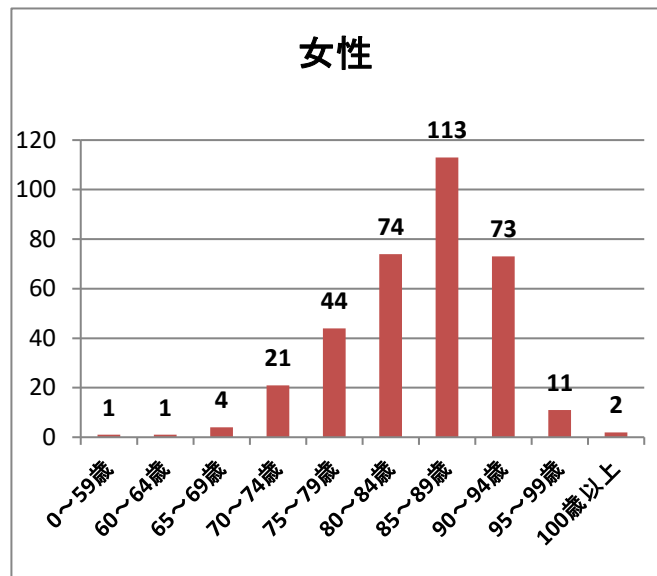
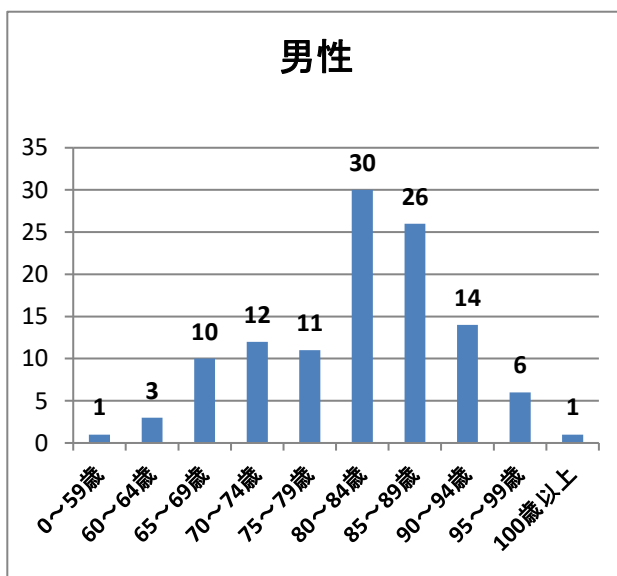
2. 定員及び現在人員(令和5年3月31日現在)

包括東予担当人数	委託担当人数	性別	
		男性	女性
242	216	114	344



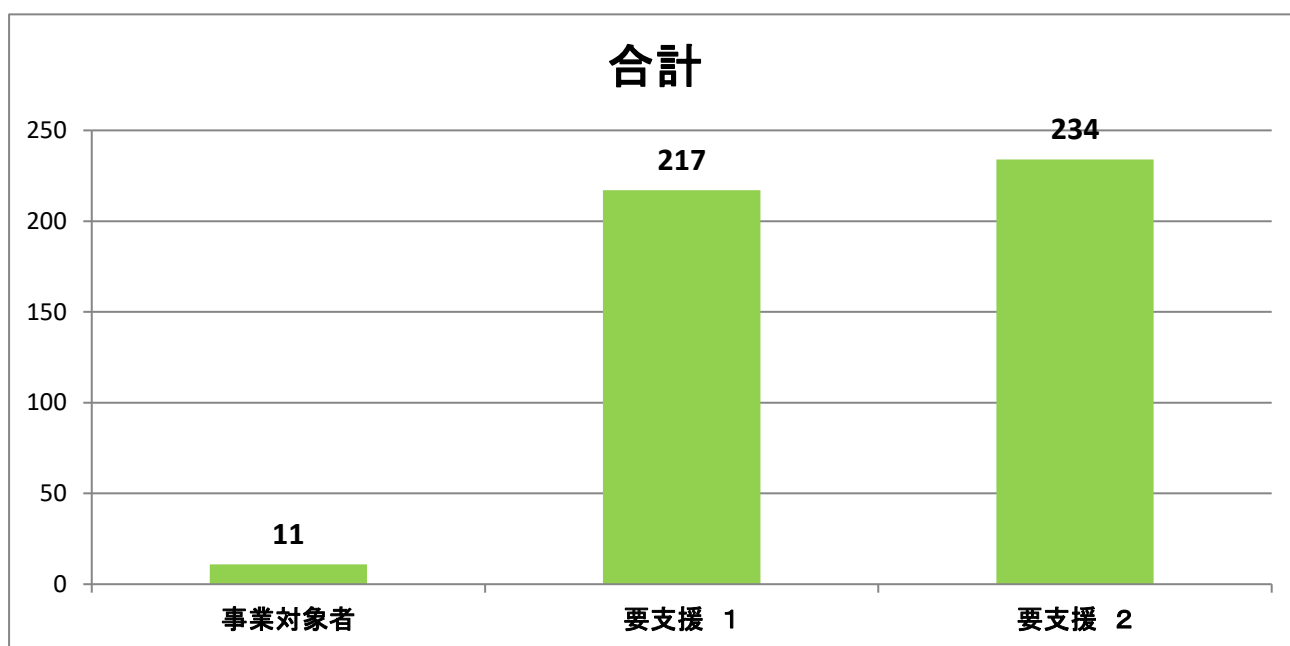
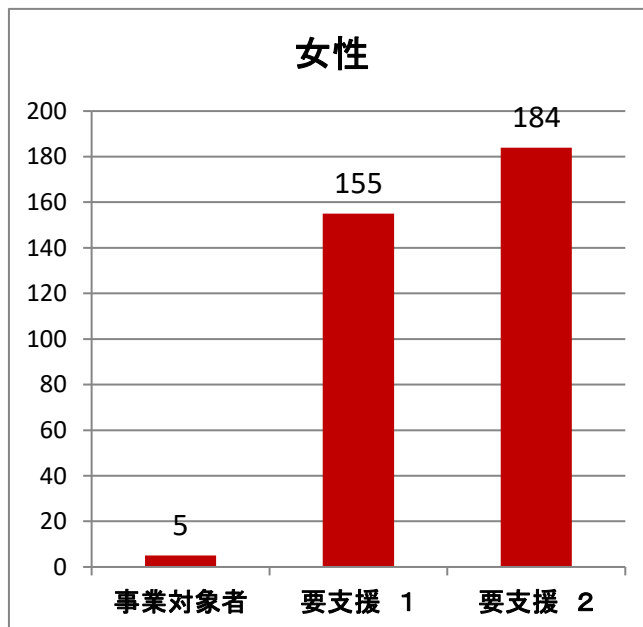
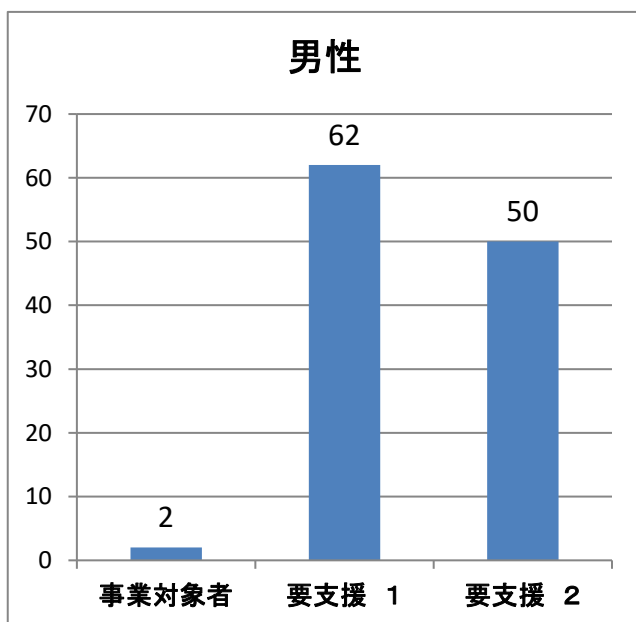
3. 年齢別人員

	男性(名)	女性(名)	合計人数と構成比	
			人数(名)	構成比(%)
0～59歳	1	1	2	0%
60～64歳	3	1	4	1%
65～69歳	10	4	14	3%
70～74歳	12	21	33	7%
75～79歳	11	44	55	12.01%
80～84歳	30	74	104	22.71%
85～89歳	26	113	139	30.35%
90～94歳	14	73	87	19.00%
95～99歳	6	11	17	3.71%
100歳以上	1	2	3	0.66%
合計	114	344	458	100%



4. 平均介護度別人員

	男性(名)	女性(名)	合計	
			人数(名)	構成比(%)
事業対象者	2	5	11	2.40%
要支援 1	62	155	217	47.38%
要支援 2	50	184	234	51.09%
合計	114	344	458	100%



5. 相談支援状況(令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日)

内容	件数
総合相談支援件数	746件
総合相談支援新規件数	270件
権利擁護事業支援件数	276件
権利擁護事業支援新規件数	20件
総数	1022件

6. 相談内容(令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日)

内容	件数
日常の介護で困っている	70件
介護保険申請、制度について相談	107件
介護保険外サービスの相談	44件
所得、お金の困っている	10件
医療、健康面の相談	4件
認知症についての相談	24件
介護者の離職防止、家族についての相談	0件
その他(制度の問い合わせなど)	12件

7. 研修実施状況

【内部研修】

実施月	研修内容	担当講師	出席者数(名)
4月	地域包括ケアとは	主任ケアマネ	7
5月	公正中立とは	社会福祉士	6
6月	個人情報保護、その取扱いについて	主任ケアマネ	6
7月	高齢者虐待について	保健師	9
8月	地域ケア会議について	主任ケアマネ	7
9月	事例検討会	主任ケアマネ	7
10月	新型コロナウイルス対策について	主任ケアマネ	8
11月	介護予防支援事業について	コーディネーター	5
12月	認知症総合支援事業について	社会福祉士	7
1月	生活保護について	社会福祉士	8
2月	成年後見制度について	社会福祉士	7
3月	消費者被害防止について	保健師	8

【外部研修】

実施月	研修種類	研修内容	出席者
6月	講義、講師	認知症サポーター研修	管理者・主任ケアマネ
8月	講義	副安全運転管理者講習	主任ケアマネ
10月～12月	講義	主任ケアマネ研修	主任ケアマネ
12月	講義	介護支援専門員連絡会外部講師勉強会	ケアマネ資格者
1月	web研修	認知症初期集中支援チーム員研修	管理者
1月	web研修	認知症初期集中合同チーム員会議	保健師
2月	web研修	ふれあいきいき研修会	コーディネーター
2月	講義	認知症初期集中支援事業検討委員会	管理者・保健師

* 困難ケース検討会：R4/5月、7月、9月、11月 R5/1月

* 介護予防地域ケア会議(本庁)：R4/6月、8月、10月、12月 R5/2月

8. クラブ活動及びボランティア受入れ実施状況表

【行事・クラブ活動】

実施月	指導援助者	内容	活動件数
4月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ	23
5月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ・家族介護予防教室	23
6月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ・家族介護予防教室	25
7月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ、脳いきいきチェック	17
8月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ	9
9月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ・体力測定	16
10月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ・体力測定	11
11月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ	16
12月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ・亀ちゃんカフェ	10
1月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ・亀ちゃんカフェ	17
2月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ・亀ちゃんカフェ	16
3月	コーディネーター	百歳体操・高齢者カフェ・亀ちゃんカフェ	16

【地域交流・ボランティア受入れ状況】

実施月	団体名	内容	参加者数(名)
12月～	本庁登録アシストメイト	月1～2回、カフェ等の手伝い (1回1～2名参加)	7

9. 苦情状況

【苦情状況】

日付	法人との関係	内容
5月6日	なし	退院時、県外から帰省した息子が、サービス事業所から2週間待機を言われた。独居でサービスがないと生活できないのに、どういふことか、との苦情相談。感染対策についての説明、担当ケアマネとの相談を提案。
8月5日	なし	デイケアとデイサービスが併用できないのはおかしいと、息子からケアマネへの苦情という形で電話相談。事情の確認、ケアマネとの話し合いの提案、ケアマネへ情報を伝えて困難事例対象として共同する旨提案するが、息子が納得して、サービス継続。

